

第80号

し ら さ ぎ

『安全・安心・安楽』
を求めて!!

事務長 石河 良一郎

厳しい寒さの、そして大雪の被害を残した冬も過ぎ、この五十河の里にも爛漫の春がやってきました。

まず、三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震は、想像を越える甚大な被害をもたらし、テレビに映る悪夢のような光景が限りなく絶望感と大きな不安を抱かせてくれました。被災をされました皆さんにはお見舞いを申し上げますとともに、犠牲になられました多くの皆さんには心からのご冥福と一日も早い再建・復興をお祈りいたします。

さて、私が事務長としてあゆみが丘学園に勤務をしまして丸一年が経過しました。今ではすっかり慣れまして、利用者の皆さんのための入所施設としての役割を考えながら、藤村施設長を支えて微力を尽くしています。

いよいよ今年十月には障害者自立支援法への移行を目指して、具体的な計画を進めています。プロジェクトチームを中心に職員が丸となって検証を行い、措置法の時代の考え方を払拭して、新しい時代の入所施設のあるべき姿を求めて課題を明確にし、施設の役割や機能について検討を重ねています。平成二十二年度末には全国社会福祉施設経営者協議会の経営診断を受けました。三月末には結果が出ましたが、現状や課題を正確につかみ、診断結果を今後の施設運営に確実に活かしていきたいと考えています。

また、施設整備も一つひとつ進めています。三月には購入以来二十年が過ぎていたマイクロボスを、日本財団の助成金を受けて新しく配備することができました。利用者の皆さんの園外活動など各種行事の充実のために役立つことを期待しています。そして、積年の課題であったスプリンクラー整備工事も国・府の補助金を受けて工事を進めています。六月末には完了の予定となっていますが、利用者の皆さんの入所生活の安全・安心のために大きな備えとなってくれると考えています。

利用者の皆さんの日々の生活を楽しく充実した安らげる環境を作ること、そのためにどのような施設運営・サービス内容・サービス利用の在り方を考えていくのかが移行後の大きな課題であります。そのためにも、保護者の皆さんと職員の連携を一層密にしなが、しっかりと協力をし合える体制を考えていかなければならないと思っています。

新しく生まれ変わったあゆみが丘学園の理念として掲げる、『安全・安心・安楽』を求めて…

今後ともあゆみが丘学園に対しまして、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



行事 春を待つ

生活支援員 中西 ひとみ

空から雪が舞う中、一月十四日に新年会が行われました。趣向を凝らしたお弁当を前に利用者の皆さんは目を輝かせ、嬉しそうな顔で食べ終え、その後は学園恒例の、厄払い、のど自慢大会です。のど自慢は各ホーム、本当に工夫をされた衣装で行われ、次は誰がどんな衣装で、何を歌ってくれるかとワクワクとした気持ちで見ながら、大歓声の中終了することが出来ました。

利用者の皆さんの輝いた目、笑顔を見て、今年も頑張ろうと感じた年明けでした。

二月一日、「鬼は〜外〜福は〜内!」と言う元気な声が、園内に響き渡りました。おなじみの「豆まき」の声です。鬼、福娘は、厄男厄女の職員、利用者さん。怯えて職員にしがみつく人もいれば、早く行けとばかりに思い切り豆を投げつける人ときざまな顔が見られます。鬼役の人は、投げられる豆に負けじと頑張り、無事、節分行事終了です。災害、病気などの邪気をはらう「豆まき」行事。病気になることなく元気になることを過ごせませうように。



たいへんお世話になりました



一月から福祉実習に来られた華頂短期大学の学生さんとホームヘルパー現任研修に来られた方に感想を寄せて頂きました。御披露させて頂きました。

今回あゆみが丘学園で十日間実習をさせていただいて、入所者の方、職員の方からたくさん笑顔を見ていただきました。皆さんの笑顔のおかげで私はとても楽しい十日間を過ごす事ができました。トイレ介助や入浴介助、様々な援助を経験させてもらい、技術だけでなく、援助させていたたくという考えも学ぶ事ができました。入所者の方達との何気ない会話や普段の関わりの中で、「人と関わる事の楽しさ、喜び」を身をもって感じる事ができました。この実習で得たものは、本当に大切にしていきたいです。また、緊張している私達に優しく指導して下さいました。また、緊張している私達に優しく指導して下さいました。また、緊張している私達に優しく指導して下さいました。

華頂短期大学 池田 結子

今回あゆみが丘学園で実習をさせていただいて、入所者の方々との関わり方や、一人一人の特徴を、たった十日間という短い期間でしたが、とても多く知ることができました。入所者さんとのように接したいのか分かんなく、不安でいっぱいだったのですが、一人一人がとても個性豊かで、初めて会った時から優しく声をかけていただき、一日目にして私の中から不安という思いは消え、安心へと変わり、楽しんで十日間実習をすることができました。入所者のことを知り、理解するに連れ、どのように接し、声をかければいいのか分かるようになり、接することにより、相手のことを知り、一緒に共有し共感したことができたということを学ばせていただきました。あゆみが丘学園で実習したことにより、とてもほつり、とない気分になりました。あゆみが丘学園で実習させていただき、毎日日本当に実習に来ているのか分かんないほど楽しい日々でした。十日間実習をさせていただき、本当にありがとうございました。

お知らせ

【新職員】
◎ 倉橋杏奈さんに四月一日より生活支援員をお世話になっていきます。
◎ 松本かなめさんに四月一日より厨房勤務をお世話になっていきます。

【退職者】
◎ 坪倉恵里奈さんが三月三十一日をもって退職されました。

【職員異動】
◎ 中村朋子さんに四月一日より厨房勤務から生活支援員へ異動していただきました。

《ホーム担当・作業担当異動》

ホーム担当		作業担当	
ホーム	氏名	作業班	氏名
かえで	中西ま 北野野 木	A	富田け 永岡ひ 山口
もみじ	富田け 中西ひ 井上		井戸本ひ 中西ひ 野木
わかたけ	永岡ひ 横谷吉 田	B	井上谷 口吉 田
まつの木	牧野山 口岡 田ふ		安里横 谷倉 橋小 幡え
すみれ	松崎岩 雲中 村藤村あ	C	藤田岡 田ふ 松崎井 田
かすみ草	井戸本か 藤田		相見上 田藤村あ
たんぽぽ	永岡と 倉橋	D	岩雲 牧野
しらかば	井戸本ひ 谷口相 見	E	北野 中西ま
コスモス	安里井 田上 田小幡え	F	井戸本か 中村永 岡と

頑張ります
こんにちは、初めてまして、倉橋杏奈です。この春、大学を卒業したばかりの二十二歳です。出身は与謝野町です。両親と祖母と兄と暮らしています。その他にネコ二匹がいます。高校・大学で福祉のことを勉強してきましたが、まだまだわからないことばかりです。でも自分なりに一生懸命頑張つてみなさんのお役に立ちたいと思つています。どんなに小さな私ですが、よろしくお願ひします。

よろしくお願ひします
松本 かなめ
今日からこちらでお世話になります。松本かなめです。新しい職場ということで少しの緊張と皆さんの不安がありますが一日でも早く仕事を覚えてみなさんのお役に立ちたいと思つています。又おいしい食事を施設のみなさんに食べていただけるようがんばりたいと思つています。みなさんのお名前とお顔も少しずつ覚えていけたらと思つています。どうぞよろしくお願ひ致します。

個性を重んじます
中村 朋子
路地の福寿草が咲き誇り、桜の蕾もほころんですつかり春めいて参りましたが、東日本大地震で被災された大勢の方のお気持ちも思うと本当に心が痛みます。また、原発の恐ろしさも計り知れないものがあり日々送られて来るニュースに目を覆いながらも、一日も早い復興を願うばかりでございます。昨年三月より厨房職員としてお世話になりました。二十五年前に取得しました資格もやはり経験の薄さにより皆さまに大変ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございません。刻み食ミキサー食など入所者の皆様に合わせた食事のご提供はとも勉強になりました。

さようなら
坪倉恵里奈
このたび職を離れることになりました。昨年九月からでしたので、お世話になったのは束の間だったということになりました。殆ど初めて経験したに等しいお仕事でしたから、今思えば、殆ど初めからの不安と葛藤は尋常ではなかったようです。しかし、新しい環境に慣れてくるに従って体調も安定して、入所されている方への支援に楽しさと余裕を感じている自分も正直驚きました。そこにはマニュアルに包み込まれない豊かなで切ない生活が存在していました。その関わり方の一端が担えて幸せでした。今後の学園の益々の御発展と入所されている方達の溢ればかりの御多幸を願つて止みません。ありがとうございました。

華頂短期大学 岡下 恵

あゆみが丘学園で実習をさせていただいて、たくさんの方を学んだり体験をすることができました。初日は、不安と緊張でなにをどのようにしてよいか分りませんでした。利用者の方から話して来てくださったり、自分から声をかけたたりして話をすることで、仲良くなることができました。たくさんの方が私の名前を覚えてくれて、とても嬉しかったです。分らないことを職員の方に質問をすると、優しく分りやすく教えていただいたりとても理解しやすかったです。また、学校では学べないこともすべて勉強になりました。

華頂短期大学 正木 季菜

今回私は、初めての知的障害者更生施設のあゆみが丘学園で実習をさせていただきました。初めての施設実習ということでたくさん不安はありましたが、初日、施設の玄関へ行くことに関して利用者の方々が笑顔で出迎えてくださり、その笑顔を見ただけで、緊張と不安が少し和らぎました。実習では、学校の勉強では学ぶことの出来ない実践を通して、たくさんの方の援助の知識や利用者の方々のコミュニケーションのとおり方を学ぶことが出来ました。利用者の方々のコミュニケーションのとおり方がとても難しく、職員の方にアドバイスをもらったりしながら積極的に頑張りました。職員の方々に尋ねると、分りやすい親切に教えて下さり、とても感謝しています。

だるまハウス 明尾美紀子

先日はお世話になりました。同じ京丹後市内で障害者施設に勤務していても他の施設で実習をする機会もなく、今回は良い経験でした。障害者施設での実習も初めてな入所施設での実習も初めてで少しばかり緊張をして行かせてもらいましたが、今までに何人もの実習生を受け入れておられるのでしよう、利用者のみなさんは心安く受け入れてくださいました。

だるまハウス 徳本 幸子

半日という短い時間の実習で、一人ひとりの障害特性もわからずただ時間だけが過ぎていったように思います。入所施設も通所施設も大切にしていることは同じだと思いますが、入所施設は生活の場、通所施設は働きの場を基本としているためか、日常働きの場を支援している私には、入所施設と通所施設では一日の時間の流れが違うように感じました。実習日男性入浴日だったので女性の方はその時間帯をそれぞれ思いのままゆつくり過ごされていたのですが、私にはゆつたりと流れる時間があったりなく感じました。生活の場と働きの場の大きな違いでしょうか。

事務だより

平成二十二年十二月一日
平成二十三年三月十五日(敬称略)

【寄 贈】竹内千鶴子・真心葬祭・今井久男・山岡義信・中尾文雄・戸田克典・前田進・三洋商事(株)・(株)玉岡・大槻栄子・コマキデンキ・松田精肉店・白井喜治・森電機工業(株)・山根久枝・野村芳昭 橋宗男

【寄 附】おみや苑・田中千賀代・鈴木秀彦・浜詰十三年会・丹後六町手話サークル連絡会・京丹後市体育協会大宮支部・浪江圭一・大宮町陸上教室・あゆみが丘学園保護者会・野村敏之・鈴木嘉光

リサイクル作業



アルミ缶 銅線 ヘルマーク 古紙回収
ご協力ください

平成二十二年十二月一日
平成二十三年三月十五日(敬称略)

安達電気、安達陽一、明田地区の皆さん、芦田梢恵、遊区、安達酒店、掛津区観光部、池田勝信、五十河地区の皆さん、五十嵐商店、生野電気、井丈商店、今西久野、今西洋服店、井上五朗、稲岡靖子、芋野地区の皆さん、糸井泉、石河(有)、糸井初美、いととめ・EAT店、和泉登喜雄、和泉秀雄、井野建設、井上義昭、今井好子、今井久男、梅田歯科医院、梅田辰行、梅田高志、梅田徳五郎、上田ひとみ、えびす電気

工事店、エナジーランド大宮、エルクラブ・オオミヤ、岡島三協製作所、オキノ電機、荻野志功、尾江充洋、大江純一、大江仙治、大木熙一、岡田喜美子、大宮南保育所、大宮第一小学校、大宮第三小学校、奥田務、おしほり店田村、岡田福治、岡田嘉則、大河一夫、大西勲、大西一子、金子産業(株)、柿本春恵、勝岡修、河島食料品店、川村義一、菊岡義和、木佐喜織物(株)、木崎弥生、喫茶・お茶のみ友だち、京キユウ、楠田電気、口大野保育所、ザグランリゾート天の橋立(株)興和、小牧英次郎、小池食料品店、河野哲朗、小笹ふさ子、小牧俊介、後藤鉄工所、コマキデンキ、小牧義正、米トウタイル、小林秀樹、小西デンキ、サニーアイランド、山翠園、笹岡昭義、笹岡儀和、佐藤勝、柴原商店、下川源太、四方秀夫、シルクロード、シラキ、白杉寅雄、獅子崎益二、尉ヶ畑地区の皆さん、諏訪部英美子、諏訪部秀雄、末次電気商会、隅倉住建、大道菓子店、館保弘、大同宏子、大同政守、大同敏剛、田上住与、田崎書店、田中博久、田中恵、谷口廣、谷次義則、玉木明司、田中ます美、壇野一義、玉岡商店、丹後生糸、辻翔平、香奈、でんき館やました、豊田定夫、藤右衛門、富田建築、中江美晴、中尾文雄、長尾道雄、中川貞治、中川利昭、永島茂樹、永濱洋子、中村保徳、中村しんや、永井清志、新田良文、西田建設、橋本耕二郎、番場電気商会、萩原誠、畑中酒店、服部仁、日達利雄、平井建材、平林かよ子、平林善一、平井電気、広野清孝、フルーツ王国やさか、フリーク、堀鉄工所、堀敏雄、堀保彦、堀義行、ホリロク(株)、増鍊工業(株)、まるぜん書店野田川店、加悦店、マジカル、丸中観光バス、松崎幹二、水口進、水口組、宮

尾倍行、三浦艶子、三重地区の皆さん、峰山鉄工所、椋平登美江、森重俊、森岡伸行、森本地区の皆さん、山中信子、山本敏彦、山本京子、ヤマモト電化サービス、矢野一城、矢野宇一、矢野幸子、矢野辰雄、矢野博、由利徳七、由利家電サービス、吉田電気工業、義村商店、由村明人、横田悦子、吉岡設備(株)、吉岡電気商会、吉岡典子、吉沢地区の皆さん、吉岡商店、吉村食料品店(株)、ローソン大宮周枳店・石川店・男山店、ワタマサ(株)

編集後記

三月十一日突如として起こった東北地方太平洋沖地震と大津波は、激甚災害の何たるかを百聞は一見に如かずの通りに雄弁に語ってくれるものだった。広範な被災のなかで不慮に仆られた方々に深甚の弔意を表すと共に昼夜を分かたず復興に奮励されている全国の心ある方々に衷心よりエールを送りたい。実は震災前日にたまたま五十河の里の「歌仙」という蕎麦屋に立ち寄った序でに、二つの軍縮条約に反対した「艦隊派」の巨頭である連合艦隊司令長官海軍大将末次信正揮毫の花崗岩自然石の碑文「有備無患」を眺める機会を得た。曰く「備えあれば患いなし」と訓むのであろうが、想いは三月でもあったので三月七日を自然に廻っていた。一九二七年から今年は何年目なのか。充分な備えはあるのだろうか等々。翌日の午後は只々佇立する以外に私にするべき仕事はなかった。「他山の石」とするには今の危機から逸早く離脱することが先決なのだが、「我山」と意識して「有備」に専念することも肝要であろうか。(磯竹生)